（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490400021		
法人名	K＆Kサポート株式会社		
事業所名	うさぎ亀山グループホーム		
所在地	三重県亀山市川合町1119番地38		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 20 日	評価結果市町提出日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2490400021-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 2 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員みんなで話し合って作成した理念の下、毎日笑顔で過ごせるよう努めています。毎日散歩へ行き、体力をつけ天気が良ければ外へ出掛けています。皆さん外出を楽しみにされており、玄関に車が停まっているだけで、出掛けられると喜ばれ勘違いされるほどです！勤続年数が長い職員が多く、長く入所されている方も多かった為、ご家族との信頼関係もしっかり築けられていることに感謝しております。みなさんにとって、安心できる場所　働きやすい場所となれるよう一生懸命取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

亀山市を南北に走る国道306号線添いのショッピングセンターや、商店街を少し東に入った住宅街の一角に、三年前新築移転した事業所である。9年前、事業所の皆んなで話し合って作成した理念を継続して実践を重ねて来た現在、日々の暮らしの中で理念は、職員の目標ややりがいに繋がっている。外出が大好きな利用者らは、玄関に車が停まると「何処に座るの？」と行く気満々の喜びの表情をされる程、明るく伸び伸びと活動的な様子が伺える。職員は利用者の小さな動きや気配を見逃さない見守り、職員間での連携プレーやチームワークが整ってきていると、施設長と管理者はこの一年間の流れの中で感じられている。利用者・家族共に事業所で最期まで暮らし続けられる安心感と思いが感じられる。「利用者が安心できる場所。職員が働き易い場所。」となる様、賢明に心を込めて取り組んでいる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者、ご家族、職員、地域の皆さん全ての方々と、どのようにして互いの関係を築いていくか、職員みんなで考え作成した理念を9年実践させて頂いている。	毎年外部評価の自己評価は、管理者の方針で職員全員が項目に触れて作成している。日々のケアサービスの場面を振り返りながら話し合い、全職員の意識統一に繋がり、理念の実践として感じられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に毎日の散歩や買い物先にて、近隣の方々と挨拶や会話を楽しまれている。地域との交流や近隣の幼稚園行事でも、園児先生方 民生委員の方とも頻繁に触れ合う機会がある。	利用者家族のご縁から、幼稚園との交流が約10年程続いており、互いの繋がりや交流を大切にしている。普段の暮らしの中で利用者と散歩途中に、近隣の方との挨拶や会話、お花を頂いたりと、気軽に触れ合う間柄が作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の実習の受け入れの際、認知症の方への接し方 実践について説明、指導しているが、地域の方々に向けては活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第一金曜に実施している運営会議にて、包括支援センター、自治会長、福祉委員、民生委員、ご家族に参加して頂き、行事 ヒヤリハット事故報告・運営の状況など報告している。 反省点も含め、幅広い方々の意見を頂き、薬の三段階チェックなど改善につなげ向上できている。	年に6回の運営推進会議が開催され、利用者の現状・事業所の行事や運営等について報告をしている。参加者からの意見や要望を丁寧に取り上げ、事業所の取り組み改善に活かしている。3年前事業所が現在地へ移転され、改めて地域との新たな活動や役割を築いて行く計画の途上である。	事業所移転後、地元災害時避難施設の位置付け準備や、備蓄品保管室には地域住民の備蓄品も備えて有るが、事業所だけで留まっている。この取組みを是非とも推進会議で報告され、地域への発信により今後に活かされる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鈴鹿亀山広域連合、運営会議にも参加して頂いている地域包括支援センターと常に連携を図り、情報の交換やご意見を頂き、事業所での疑問など相談しやすい状況である。社会福祉協議会とは、実習の受け入れなど連携を常に図っている。	広域連合の窓口へは、推進会議議事録提出や介護保険更新手続き等に出向いている。月に1度の介護相談員来訪にて、利用者の暮らし振りや気付き、ニーズ等具体的に示してもらいながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修ミーティング、身体拘束廃止・虐待防止委員会にて、他事業所と協議を行い理解を深めている。以前はやむを得ず入口施錠していたが、現在は開放し見守り強化で取り組めている。	身体拘束廃止・虐待防止委員会が2ケ月毎に法人内各部署代表者の参加で開催され、全職員に伝達され防止対策を徹底している。利用者の日常の心と体に目配り・気配りを心掛けている。職員１人で対応時には止む得ず玄関ドアは施錠するが、日中は見守り強化を根幹に解放し、家族からの理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止委員会を2ヶ月に1度、他事業所と開催し意識を常に持ち考える機会を設けている。あざ等の情報を全員で共有し、見過ごさない体制をつくっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあたえられており、理解はしているつもりだが、実際に制度が活用される機会は今のところはない。意識が薄れないよう定期的に研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定等の際は、しっかり説明し同意を得ている。ご家族より食費に関する要望を頂き、試行錯誤した結果、毎食分割し徴収する方法への変更に至った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に面会時会話をもっており、順に参加して頂いている運営会議でも、意見・要望等を聞き取り職員間で情報を共有している。玄関に意見箱を設置している。	年1回秋の家族交流会では、利用者と家族が一緒に作業出来る時間作りを目指し、作品作りを実現している。働く多忙な家族との連絡手段として、メールアドレス登録を利用している。メールの送受信で、家族の希望が把握出来、実現出来た事例も有る。今後の運営や支援に向けて、積極的に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて、施設長・管理者含め話し合い、意見交換している。何かあればその都度、意見等を聞く機会を設けている。	施設内研修や外部研修へは希望者を勤務調整し、人材育成に努めている。働き易い職場環境作りを願う意見や希望が多く聞かれ、休憩時間に可能な職員と個別面談の機会を持ち、反映出来るように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より向上心をもって働けるよう、要望を伝えやすい環境作りを行ってもらっており、出来る限りの要望を伝えられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験に応じて必要と思う外部の研修の紹介や、研修で学んだことを他の職員にもミーティング等で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問は出来ていないが、研修等で交流する機会はあるので、サービス向上に向けた意識作りは出来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様と直接お会いし、状態・要望・意向等を把握し、職員と顔を合わせる事で安心できる関係を築く機会をもっている。センター方式を活用し生活歴にそった会話をもち、少しずつ馴染んで頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の記入を必ずご家族にお願いし、面談等でも困っていること、ご家族の想いを聞きだしている。何があってもいいように終末期の考えも聞くようにし、当事業所の目指すものを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所だけでなく、ご家族その際の担当ケアマネージャー、関係する医療機関と連絡を取りｻｰﾋﾞｽを進めている。本人が馴染めることに主眼をおいたケアプランを作成し、必要なサービスに繋げ支援している。初期の対応がもっとも大切だと思っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき「共に」の精神で、ご利用者と職員を切り分けて考えるのではなく、共に過ごすにはどうしたらいいのか、何が出来・何が出来ないのか常に考え協力支え合いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月うさぎ通信にて近況を書面にてお知らせし、面会時には直近の状況や詳細をお伝えし、本人様とご家族の交流が上手くもてるよう会話の中に入りフォローしている。面会に来れない場合は、メールにて密に報告・相談させて頂いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方がみえるカフェに、定期的に通い関わりを継続したり、住んでいた場所や馴染みの場所へドライブに行ったり、昔のことを思い出している。	毎日の散歩や外出で、近所の方との挨拶や会話が自然な流れで交わされている。併設デイサービス利用者で顔見知りの友人との交流も楽しみで、生活環境下が「馴染みの人や場」であり、繋がりが途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い方には間に職員が入り、上手く伝達できるよう会話をつないでいる。関わりがうすい方同士あえて一緒にソファーに座って頂き、きっかけを作り、目が見えない方でも交流出来る様そばで手を添えながら会話を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と共に看取りを行った利用者様の奥様について、ご家族よりご相談があり結果入所に至ったというご縁がある。終了しても頼って頂ける関係を築けたことは誇りに思う。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意外に作れないスタッフと利用者との一対一になれる時間を散歩の時間に設け、ゆっくり会話を密に出来る様工夫している。日常的な会話の際に、傾聴・気付きがもてるように努めている。	日常生活ケアで職員と利用者が1対1での散歩をする支援により、利用者から「昨夜は眠れなかったわ」と普段言われない言葉が聴き取れたり、安心されてうなずかれる表情が見られるように変化して来た。利用者とマンツウマンで話し易い環境作りと、センター方式を利用したアプローチを丁寧な実践で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、センター方式を活用し、職員全体で把握するよう努めている。センター方式にてご家族より情報を頂いても、しっかり把握できない所は面会時に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、表情や言動の変化を記録に残し、申し送り等で職員全体で情報を共有し、小さな気付きもスタッフ同士で意見交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が各担当者のモニタリングを毎月行い、ミーティングで意見交換し介護計画に反映させている。面会時や家族交流会の時に、ご家族の意向を確認している。	目標期間を短期3ケ月・長期6ケ月と設定し、3ケ月毎のモニタリングに基づいた計画の見直しが経過記録と共に丁寧に記録されている。計画作成担当者・職員・看護師・主治医・家族の意見や思いを、柔軟かつ臨機応変に取り入れて計画作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話の内容や些細な事でも記録に残し、いつもと違う行動があった際は詳しく記入している。新しい情報を共有する際、連絡ノートに記入しスタッフ全員が情報を把握、実践にうつせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族間のなどの人間関係も考慮して柔軟な声かけ対応をしている。第三者が決めつけることなく、本人様が望まれることを実践し、継続したいかどうか判断して頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の外出行事や公園へ出掛けたり、市の催し物やイベント等に可能であれば参加し刺激を感じてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2週間毎の往診と、緊急時に24時間対応して頂いている。病状に変化があった場合は直接協力医からご家族へ説明して頂くようにしている。他科受診が必要な場合は、近況を書面で情報提供しスムーズに診断治療につながるよう対応している。	利用者全員が協力医より2週間毎の訪問診療を受けており、非常勤看護師3名配置により日中の医療支援や服薬管理が安心である。夜間緊急時は協力医への連絡指示体制も万全であり、利用者や家族への安心な日常生活を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に一緒に動き、同じ状況を観察し、変化にはその都度報告・相談し対応指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリー提出を行い、利用者の不安が無いよう定期的に本人との面会を行い、病院の方に状況を確認している。早期退院に向け、医師・家族を含め話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況状態が変わる毎にご家族に説明し、思いや意向に添い「看取りの指針」を作成、同意を得ている。出来ることを出来る限り行い、慣れ親しんだ場所でその方らしく最期をむかえるよう支援させて頂いている。	入居時に利用者と家族へは、終末期や看取りへの説明、同意書を交わしている。慣れ親しんだ場所で最期を迎える希望への支援と共に、尊厳を持って数々の看取り支援に取り組むことが出来ている。また職員の看取りへの熱い思いや姿勢があって、看取り研修にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを提示しているも、実践する機会が少なく身に付けれていない。昨年より課題になっているが、訓練が行えるように早急に対応したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回全事業所合同で、利用者も一緒になり総合訓練を実施している。訓練時には必ず防災会社（場合によっては消防署職員）も参加して頂き、細かい手順の再確認の機会になっている。自治会、地域との助け合いが出来るよう、水や食料の備蓄を行っている。	事業所で一番心配される火災も想定した、年2回の総合訓練を事業所内合同で実施している。建物は三年目で新しく耐震には頑強であり、地元災害時避難施設の位置付けを検討準備している。事業所には利用者と地域の方々の備蓄品も備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということを忘れないよう敬語を使うが、一人ひとりその方の性格や心身の状態を考慮し、臨機応変な対応を心掛けている。場所場面に応じた言葉かけ言葉遣いに注意している。	入居の長い利用者は馴染みの話し方が多いので、職員も個々に合わせて尊重し、臨機応変な話し方を工夫している。食事前のトイレ誘導は、「手を洗いましょう」等さり気ない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に遠慮なく話せる雰囲気を作り、返答しやすい簡単な質問の仕方で気持ちを伝えられるよう会話を持ち、表情をしっかり観察し言葉に出来ない時は推測している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日９名全員の希望に沿うのは難しくはあるが、なるべく希望を発信している時に取り入れられるよう努力している。発信がない場合は、こちらから案を出して聞きだせるよう会話をもっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみはもちろん、ヘアカットの細かい希望や洋服の好み等、その方が望むその方らしさで過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食べたいものを取り入れたり、チラシを見て雑談しながら献立を決めたり、目でも楽しめるよう彩りを気遣っている。	事業所内厨房(外部業者)で、月～土曜日の昼食が調理される。朝と夕食、日曜3食は職員と活躍出来る利用者での調理である。チラシを見て近くのスーパーへ週2～3回、利用者と食材を買物に出掛けている。個別に誕生日の利用者と職員で希望の外食を楽しめている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶がなかなか進まず水分摂取が難しい方に、味を変えて少しでも摂取出来る様提供している。体調・嚥下の状況に応じて量・形態を変え、一人ひとりに合った摂取量を考えバランスがとれるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自居室にて口腔ケアを行っている。自歯の方で食べ物が挟まりやすい方は、歯間ブラシを使用し、夜間は義歯洗浄・消毒も行う。義歯が合わなくなると歯科医師に相談している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況に合わせてトイレ誘導自尿を促している。一人ひとりのサインや動きを把握し、的確に誘導、自立に近づけるよう支援している。可能な方には、布パンツへ移行している。	基本はトイレ誘導で、排泄の自立支援に努めている。入居時は紙パンツ利用者が、職員の日々意欲と粘りで、4名が布パンツへと自立した。今後の継続こそが重要であると、職員は根気強く見守り続けている。夜間はパット使用の工夫により、睡眠優先の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩、水分量や食物繊維など気にしながら自然排便促すも、改善は難しく服薬にて対応していることが多い。毎朝ジュースを飲むと排便が出やすい方には、習慣を継続し予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外の午後に、組み合わせたメンバーで入浴して頂いているが、時間が許せば希望の入浴も可能である。決まった順番にならぬように、記録を残し平等に入れるよう工夫している。	日曜以外は午後から毎日が入浴日で、個々に週2回予定表で順番も配慮している。浴室壁の白さに対し、白の手摺りに緑色テープを付ける事で間違い無く握れる様に安全対策の工夫がされている。近所から柚子を頂き、柚子湯を楽しみ、入浴剤では湯の色や香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝のタイミングを尊重し、居室の照明の明るさ、布団や枕・ぬいぐるみ・寝る方向等ゆっくり安眠出来るように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合わせ服薬しやすい形状にしている。薬の内容説明の用紙を薬と一緒に保管し、変更・追加等いつでも確認出来る状態にし、連絡ノートにも記入し情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や会話から、本人の好み等を知り　認知症の状態を考慮しながら、買い物や調理・手芸・裁縫や園芸など、得意な作業が出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出をする喜びを皆さん感じており、外出が自然なものになるよう日常的に付き添って、散歩・買い物・季節の外出行事などに出掛けている。誕生日には好みの食事に同行する時もある。ご家族と外出する際は日常の様子・注意点をお伝えし、事故が無いよう支援している。	雨の日以外は町内を職員と一緒に、毎日散歩に出掛けている。誕生日には好みの外出外食に、職員も同行支援して、なるべく外出の機会を作る様ようにしている。夕方不穏気味の利用者には一緒にゴミ捨てに出て、外の空気を吸って気分転換してもらうように支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かり、職員が管理している。買い物等で使えることは本人にも説明しており、支払いの際、本人に支払って頂く機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出させて頂いている。知人の方から手紙が届くと、可能な限り直筆で返信を書いて頂くよう支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾りつけを利用者と一緒に作ったり、小物の設置で季節感を感じてもらいながら、家庭的な空間を作っている。1日3回の換気を施行し、日差しが良く当たる時は、利用者同士で日光浴を行っている。	1階はグループホームとデイサービス、2階が有料老人ホームで、3事業所が一つの広い共通の玄関になっている。リビング兼食堂から各居室への廊下は、コの字型に繋がり、悪天候の日は利用者の散歩コースになっている。全体の壁紙は白色で、食堂テーブルも白なので明るい清潔感が印象的である。5台のテーブルは使用目的に応じて、移動や置き換えも自由に出来て、心身の活力や機能性が考えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間のなかではあるが、ソファでの気の合う方との席の配慮や、その時々に望む場所でゆっくり過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やぬいぐるみ、ご家族との思い出の写真など、自由に持ち込んで頂き、落ち着ける空間作りが出来ている。	居室内は、収納家具・エアコン・洗面台・ベッドが設置されている。使い慣れた家具や好みの日用品が持ち込まれ、家族との思い出の写真が飾られて、その人らしい居心地良さが工夫されている。洗面台の大きな鏡には、綺麗なシールや絵が貼られて、鏡に映る物や光で混乱が起きないように配慮や工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ、台所、浴室等プレートが貼ってあり分かりやすくしている。入所間もない方には、表示を追加し、場所の認識をいち早く行えるよう配慮している。		